

行仙宿・集積間伐材の皮剥ぎ作業

◇実施日：平成26年6月29日(日)；晴

◇参加者：川島 功、沖崎吉信、生熊敏男、榎本康夫、

中前 偉、畑林清子。青木宏充（1泊2日）。

共同通信社・和歌山支局：高津英彰記者。計8名。

先日、共同通信社から新宮山彦ぐるーぶ活動の取材申込が事務局にあり、本日の行事に高津記者が同行取材された。

中前車(高津記者、川島同乗)と沖崎車(生熊、畑林同乗)に分乗し、小阪で榎本氏が沖崎車に分乗し登山口へ。車中、高津記者に、当ぐるーぶ活動内容等を説明し、沖崎・川島から行事報告等を渡す。

昨日迄の梅雨空は、今朝からすっきりと晴れ、梅雨の中休みとなり予想以上の天候に変わった。登山口には、事前連絡がなかったが青木車が駐車されている。



荷作り中・大丈夫か？



荷上品が無い、砂1袋荷上だ！

共同荷上品のスコッチ・ウィスキー1本+アルミ羽釜(榎本)、缶ビール1箱(川島)、毛布3枚(中前)、4リットルウィスキーポリ空瓶5本(畑林)、砂袋1袋(沖崎)を手分けして持ち、この時節は山ヒルがいる事から、山ヒルが寄り付かない様に足周りに虫除けスプレーを噴きつける。生熊さん先日膝が悪そうだったが、大丈夫と参加して下さる。

高津記者は、山登りは久しぶりであり又、かなりの体重もあり息遣いが荒く遅れがちになり、沖崎氏が付き添って登って下さる。

昨夜宿泊の青木さんに迎えられ、直ぐ山ヒルの有無を点検する。生熊さん靴下が赤く染まり吸われている。中前さんは付着していたが吸われていない、他の人には付いていなかった。

小休止後、十時前から行者堂で中前さん導師にて、作業安全と玉岡さんの早期快癒を祈願して勤行。

行者堂に小滝螺雲師の碑伝(ON)があり、前鬼から奥駈行に入峰され、行仙宿宿泊がノートに記載されている。

螺雲師は、日常生活から徹底した精進食で各地の修験地で修行されておられ、並外れた霊力によって多くの方を救済されている行者さんと聞いている。玉岡さんと懇意にされているので、お元氣ならきつと同宿され懇談された事でしょう。

高津記者に水場を見て貰うつもりだったが、一緒に登った沖崎氏の忠告もあり取り止める。

先般の茂原クリニック一行の道普請及び新入社員作業体験研修で管理棟北側尾根鞍部等に集積した間伐材の皮剥ぎ作業をする。気温は18℃で、稜線だけに心地良い風があり作業に丁度よい。

倒伐後8ヶ月になり、梅雨により栓皮の含水が多くなり、材によって気持ちよく皮がはがれ、節もあり剥ぎにくい材もある。

運搬するために長めに残した枝や中途半端に切られた枝跡は、チェーンソーにて再度切り落とす。

鞍部に集積された間伐材は、全て皮剥ぎを終え、寸検して道端に積み重ね、午前中の作業を終了する。

小屋の東側屋外で昼食の準備をするが、日差しが強く屋内で昼食・談笑となる。

高津記者には、昼食前後に管理棟及び小屋内の掲示物を説明。



午前中の皮剥ぎ作業



昼食後の談笑

午後より、坂上に集積された間伐材は短いロープを使って引きづって鞍部に降ろし皮剥ぎをする。

皮剥ぎした材32本は、寸検し積み重ねる。又、前回分の残材18本も寸検し再度積み直す。(部材寸法は別紙)

剥いだ捨て皮は、十津川側の林内に捨て、乾燥すれば焚き付け用にする。奥駈道を略元の状態に片付け本日の作業が終了する。

缶ビール・コーヒー等で休憩後、14時半過ぎに下山する。



ほぼ午後の作業終了前



本日の作業終了!

荷上寄贈品

中前 偉：毛布3枚+4リットルウイスキーポリ空瓶5本。(水運搬用)。
畑林清子：アルミ羽釜(2升炊き)。永山和明：缶ビール1箱。
林 一夫：スコッチ・ウイスキー(700ml)1本。

行動タイム

新宮 7:00→8:35 行仙宿登山口 8:50→9:45 行仙宿 10:00→皮剥ぎ作業→11:40 昼食 13:00→皮剥ぎ作業→14:10 行仙宿 14:35→15:15 登山口 15:25→17:10 新宮。
(記 川島)